

シグマ委員会  
元年度第5回運営委員会議事録（案）

日時： 1989年10月30日（金） 13:30～17:30  
場所： 日本原子力研究所本部 第1会議室  
出席者： 北沢（東工大）、吉田（東芝）、五十嵐（NEDAC）、若林（動燃）、  
瑞慶覧（日立）、石井、菊池、平岡（金子代理）、長谷川（以上原研）  
幹事： 中島（原研）  
オブザーバー： 飯島（東芝）、松延（住友原工）、井頭（東工大）

配布資料

1. 元年度第4回運営委員会議事録（案）とアクションリスト
2. Johnny Rosen氏（NEA Data Bank）から菊池氏（原研核データセンター）への手紙（NEA Data Bankの将来計画に関して）
3. 核データ国際協力に関するTask force会合の議事録（Report of the NEACRP/NEANDC Task Force on Evaluation Cooperation）
4. 評価国際協力に対する日本側対応（案）
5. Nigel Tubbs氏（NEA Data Bank）から五十嵐氏宛の手紙（NEA Data BankのOn-line serviceに関して）
6. 平成元年度会合開催数について
7. 核データ研究会準備状況について

議事

1. 前回議事録確認

前回9月14日の議事録（配布資料1）を確認した。  
データブック作成の進捗状況について質問があり、次回に報告することとした。  
来年1月の原子力先端研究国際シンポジウムには核データには3件の依頼があったが2件（光核反応と50MeVまでの核データ）発表の予定である。

2. 事務局報告

- 1) 五十嵐氏が原研を退職し、菊池氏が核データセンターの室長になった。
- 2) NEA Data Bankの将来計画会議が12月12-13日に開催され、日本からは浅井氏（原研計算センター）が出席する。（配布資料2）この会議の資料として日本からspallationによる核変換および原子炉でのアクチニドの燃焼に関して論文を提出するよう要求され、中原氏（spallation関係）と高野氏（原子炉によるアクチニドの燃焼）に論文作成を依頼した。
- 3) JENDL-3は10月上旬に完成した。現在公開の手続きをとる準備をしている。
- 4) Menapace氏（9月19-21日）とHodgson氏（9月20-21日）が原研を訪れ、9月20日に講演会を開いたことを五十嵐氏が報告した。

5) 高橋博氏が10月16日原研を訪れ、低温核融合、電子線による消滅処理、TRUおよびFPの消滅処理について講演したことを平岡氏が報告した。

6) 動燃炉定数調整ワーキング・グループ会合について菊池氏が次の通り報告した。

11月から調整作業に入る。コードは既に出てきている。Covariancesは菊池氏がORNLの26群のものを18群に縮約したものと適当に評価したのを使う予定である。

### 3. 核データ評価国際協力について

菊池氏が10月5-6日のTask force会合で決定した項目(配布資料3)について報告した。またそれに基づいて作成した日本側の対応案(配布資料4)を報告し、ワーキング・グループおよびサブ・ワーキング・グループのメンバー候補を提案した。熱中性子領域におけるアクチニド・データ・サブ・ワーキング・グループのメンバー候補に松延氏(住友原工)を追加して日本側対応案を承認した。今年中に核データ専門部会長(水本氏)を含めてワーキング・グループとサブワーキング・グループのメンバーでアド・ホック会合を開くことを決定した。

### 4. 原子力学会春の年会の特別会合について

次の様なテーマが提案されたが、次回に更に検討して決定することにした。

- ・ 動燃の群定数調整について
- ・ 原子力先端研究国際シンポジウムのサマリー
- ・ 核データ評価国際協力について(事務局報告を長くして、これに含めることにした。)
- ・ 臨界安全関係
- ・ ITERについて
- ・ ケルマファクター
- ・ 崩壊熱基準について
- ・ JENDL-3(総合講演として提案する。)
- ・ FNSでの実験
- ・ FCAでの実験
- ・ アイソトープ生成についての実験および計算

炉物理委員会とも連絡をとり、炉物理関係のテーマも考えることにした。

### 5. 1989年核データ研究会準備状況

井頭氏が配布資料7により研究会の準備状況について次の通り説明した。

- ・ 11月20日(参加申し込み、原研の宿泊施設利用の締切日)現在の参加申し込み者数

第1日目(11/16(木)) 88名

第2日目(11/17(金)) 82名

懇親会(11/16(木)) 59名

- ・ 原研宿泊施設利用者の内10名は東大宿泊施設に回ってもらうことにした。
- ・ 10月27日(水)現在で数件の予稿しかあつまっていない。(締切日:11月27日(金))

### 6. NEA Data Bankのオンラインサービスについて

菊池氏が配布資料5に基づいてNEA Data Bankの方針について説明し、日本側の対応案

について次の通り説明した。原研那珂研のVAXを使ってテストをする。技術的なことは計算センターが分担する。核データについては、検索はオンラインでやるが、データ転送は金がかかるので今まで通り磁気テープで送ってもらう。NEDACによるコードの配布については、NEA Data Bankの理解が必要なので、まだやり方が決まっていない。

#### 7.ワーキング・グループ会合の開催数について

中島氏が配布資料6に基づいて、今年度の会合開催数について次の通り説明した。前回の運営委員会の決定通り会合開催数を（年度頭初の予定数－8月までの開催実数）/2を限度とする案をグループリーダーに伝え、意見を求めたところ、若干のワーキング・グループから増やして欲しいとの要望があった。それぞれもつともな理由があると思われるので、増やすことを認めた。この案で全部の会合が開催された場合、旅費が足りるかどうかは現時点では分からない。

各ワーキング・グループの開催予定数は原案通り認められた。

#### 8.その他

- ・次回は12月22日（金）に行うことにした。
- ・次回には来年度の方針についても議論をする。

#### Action List

No.	担当者	内 容	期 限
1	事務局	データブック作成の進捗状況を報告する。	次回
2	菊池	核データ評価国際協力のワーキング・グループ、サブワーキング・グループのメンバーに水本氏（核データ専門部会長）を含めたアドホック会合を開き、今後の方針を詰める。	12月末
3	全員	原子力学会春の年会の特別会合のテーマについて考えをまとめる。	次回
4	菊池	原子力学会春の年會にJENDL-3の総合講演を提案する。	次回